



東日本大震災 平成23年3月11日

る災害 一人ひとりが考え、そして、備える

公助

公助とは、個人や周囲・地域あるいは民間の力では解決できないことを公共が行うことです。公助の代表例は次のとおりです。

- ・情報の提供
- ・避難所の開設
- ・仮設住宅の設置
- ・その他、必要な対策

事前に家庭で備えましょう

いざというときに適切に行動するためには、日ごろから備えておかなければなりません。防災対策を行う上で一番重要なのは、個人が危機意識を高めることです。

まずは、一人ひとりが災害について考え、その次に家族や隣近所などと話し合い「非常持ち出し品の準備」や「家具の転倒防止対策」など、事前に備える事が大切です。

自主防災組織を結成しましょう

自主防災組織は、根室市も町会単位での組織結成を

働きかけ、現在、116町会中62町会で結成されていますが、約半数の町内会が未結成となっています。

東日本大震災では、津波により家が流される映像が連日のように報道されましたが、津波で流された多くの建物は、最初に起きた震度7の地震により基礎から倒壊してしまったために、津波で簡単に流されてしまいました。

地域によっては、地震や津波だけではなく、増水や土砂災害などが起こる可能性があります。未結成の町内会についても、「自主防災組織」の結成に積極的に取り組みましょう。

根室市では町内会へ出向き、「出前講座」による「自主防災組織」の役割や結成方法を説明しています。

また、「地震や津波」など防災対策の基礎的な知識についてもお話することができますので、お気軽にご相談ください。



市民による図上訓練